

2026 年度自然災害に関するオープンフォーラムを開催しました（2026/9/26）

テーマ：東日本大震災、震災伝承、防災教育
会場：災害科学国際研究所・多目的ホール

2026 年 9 月 26 日、2026 年度自然災害に関するオープンフォーラム「震災 15 年、若者がつなぐ物語ー震災を知らない世代の『伝承』ー」が、災害科学国際研究所の多目的ホールで開催されました。日本自然災害学会と第 45 回日本自然災害学会学術講演会・オープンフォーラム実行委員会（実行委員長・越村俊一教授（災害ジオインフォマティクス研究分野））が主催し、京都大学防災研究所と災害科学国際研究所、それに自然災害研究協議会東北地区部会が共催しました。

このフォーラムは、震災発生後に生まれた世代（前後を含む）＝「震災を知らない世代」の声・思いを共有することを目的とし、宮城県内で震災伝承の学習に取り組む主要な学校等をお招きしました。はじめに、佐藤翔輔准教授（防災社会推進分野）が開催の趣旨を説明し宮城県内の震災伝承について講演した後、児童・生徒のみなさんがそれぞれの学びと伝承活動をリレー形式で発表しました。

※リレー発表：私たちの震災伝承

- ・石巻市立北上小学校
- ・巨理町立荒浜中学校
- ・宮城県多賀城高等学校
- ・宮城県気仙沼高等学校
- ・気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館 中高生語り部ガイド
- ・みやぎ東日本大震災津波伝承館 ボランティア解説員

地域の防災マップ作りを通じた「防災とは人と人とのつながり」という気づきや、自ら課題を見出して解決し発信する経験が「自分ごと」化につながったことなど、さまざまな成果が発表されました。

リレー発表後は、登壇した児童・生徒のみなさんと会場に集まった方々との対話セッションがあり、会場からは「自分が経験していない東日本大震災について発信することにちゅうちょはないか？」「震災伝承や防災学習を続けられるモチベーションは何か？」といった質問が寄せられていました。

最後に、フォーラムの実行委員長を務める越村教授ならびに佐藤健教授（防災教育実践学分野）による総評が行われ、「震災を知らない世代が紡ぎ出す言葉こそが未来の社会を強くする」「災害と恵みという自然の二面性を踏まえ、学んだ成果を地域へ還元していくことが持続可能性につながる」といった所感が示され、フォーラムは締めくくられました。

文責：佐藤 正則（広報室）

（次頁へつづく）



石巻市立北上小学校の発表



北上小学校が作成した防災マップ
第22回小学生のぼうさい探検隊マップコンクールにて「文部科学大臣賞」を受賞



巨理町立荒浜中学校の発表



宮城県多賀城高等学校の発表



宮城県気仙沼高等学校の発表



気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館
中高生語り部ガイドの発表



みやぎ東日本大震災津波伝承館
ボランティア解説員の発表



対話セッションの様子



実行委員長・越村俊一教授による
クロージングコメント



佐藤健教授によるクロージングコメント